

# 関門海峡ミュージアム 個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	16
施設所管課	広域地域振興課

令和3年2月

❀福岡県❀

# 関門海峡ミュージアム個別施設計画

## 目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 建物全体の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

## 第1章 概要

### (1) 対象施設の概要

対象施設	関門海峡ミュージアム		
所管	企画・地域振興部広域地域振興課		
整理番号	16	竣工年度	平成14年度
所在地	福岡県北九州市門司区西海岸1-3-3		
敷地面積(m <sup>2</sup> )	9,243.03	建築面積(m <sup>2</sup> )	4,214.81
主構造	S	延床面積(m <sup>2</sup> )	9898.08
主要建築物	関門海峡ミュージアム		

### (2) 対象施設の活用状況

建物の名称	関門海峡ミュージアム			
棟番・枝番	101	—	1	竣工年度 平成14年度
建築面積(m <sup>2</sup> )	4,214.81		延床面積(m <sup>2</sup> )	9,898.08 <small>※うち県所有面積 4703.15</small>
構造・階数	S造 地上6階			
各階面積及び用途				
階別	階床面積(m <sup>2</sup> )	主な用途(室名他)		
5F	613.10	レストラン、展望デッキ		
4F	1,392.20	プロムナードデッキ、海峡アトリウム		
M4F	262.45	海峡アトリウム、海峡歴史回廊上部、海峡レトロ通り上部天井		
3F	1,249.57	海峡歴史回廊、海峡アトリウム		
2F	2,277.27	海峡アトリウム、海峡レトロ通り、海峡こども広場、海峡体験ゾーン、ウッドデッキ		
1F	4,103.49	海峡レトロ通り、多目的ホール、休憩室		

関門海峡ミュージアムは、「関門海峡をまるごと楽しむことができる体験型博物館」として平成15年4月に開館しました。

平成30年には巨大セイルスクリーンの設置など展示物の更新に着手し、令和元年9月にリニューアルオープンしました。本施設は門司港レトロ地区最大の集客を誇り、観光客をはじめ家族連れも数多く訪れています。

施設は県と北九州市で区分所有し、管理運営は北九州市による指定管理を行っています。

### (3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



## 第2章 優先順位の考え方

### (1) 施設間の優先順位

当該施設は、築18年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新（建替え）は計画していません。他の県有施設と比較して改修等を優先すべき個別事情は特にありませんが、県民の利用度が高い施設であることから、安全性の確保を最優先とするとともに、文化施設としての機能を一定レベルに維持していきます。

### (2) 施設内での優先順位

施設は、鉄骨造りによる大規模建物で、門司港レトロ地区の観光の中核として整備され、海岸沿いに立地しています。直接人的被害につながる恐れのある外壁の改修、及び建築物の機能を維持するための屋上防水等の改修、空調設備の全面改修等を優先的に行うこととし、その他の設備についても予防保全のための改修を計画的に行っていきます。

### (3) その他

北九州市と共同で整備した施設で、大規模補修は県と市が折半で行うため、市の優先順位と調整する必要があります。

### 第3章 個別施設の状態等

#### (1) 個別施設の状態

屋上部において、木製デッキ部や立上り部に経年劣化が見られます。また、排水溝部に泥やゴミが溜まり、苔が繁殖しています。  
施設設備の不具合等が発見された場合には事後保全による修繕を行っていますが、予防保全による改修はできていない状態です。

#### (2) 建物全体の現存率

**現存率算定表**

施設名称	関門海峡ミュージアム		建物名称	関門海峡ミュージアム			
所在地	北九州市門司区西海岸1-3-3		棟番・枝番	101	-	1・2	
建築年度	平成14年度		建築面積	4,214.81 m <sup>2</sup>		築年数	16年
構造・階数	S	6	延面積	9,898.08 m <sup>2</sup>		現存率	<b>84.0</b>
	項目及び①評価比率(%)	仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	S	16	100.0	40.00	
	小計					<b>40.00</b>	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水	16	60.0	12.00	
	外壁	20	塗装、タイル、コンクリート、その他	16	80.0	16.00	
	小計					<b>28.00</b>	
電気設備	受変電設備	10		16	80.0	8.00	
	小計					<b>8.00</b>	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		16	80.0	8.00	
	小計					<b>8.00</b>	
合計						<b>84.00</b>	

※平成30年施設調査時のデータ

この結果、福岡県関門海峡ミュージアムの現存率は「84.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 <sup>1</sup>	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	60.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 15 年以上
外壁	塗装 タイル コンクリート その他	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	石こうボード EP タイル貼り モルタル EP 仕上げ無し その他	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが、部分修繕で対応可能
天井	吸音板 コンクリート打放し 石こうボード EP モルタル塗り 化粧石こうボード その他	80.0		
床	タイル貼り ビニールシート張り 板張り	80.0		
建具	アルミ	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上

<sup>1</sup> Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
受変電設備	あり	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
自家発電設備	自家発電設備	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
動力設備	動力設備	60.0	経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	40.0	経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調調和設備 喚起設備 排煙設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給排水設備 衛生設備 給湯設備	80.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
消火設備	消化設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上
エレベーター 設備	エレベーター設 備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年以上

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2002	18	新	—	—	—	—	65 年

建物に大きな問題は無いため、関門海峡ミュージアムの目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 47 年）と設定します。

## 第4章 対策の内容等

### (1) 改修・更新について

築18年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は47年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約5億1百万円となっています。

### (2) 対策の平準化について

電気設備や機械設備は、館全体の運営に及ぼすことから、照明やエレベーター等の機械設備や空調機器のうち特に劣化が著しいものについて、これまで実施してきた部品交換ではなく全面更新を行う方向で、福岡県と北九州市で協議を行いながら、費用や事務負担軽減等を図る観点から平準化を行い、順次改修を行うこととします。

また、来館者の安全を確保するために、主要部の屋根や外壁の補修工事も実施することとします。

### (3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取り組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により計画の見直しを行います。

(百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内壁、天井、建具	0	224	0	224
電気設備	電灯・電話設備、自家発電設備、動力設備、非常用照明・火災報知設備、その他の設備	0	0	138	138
機械設備	給排水・給湯・ガス設備、空調和・排煙設備、消火設備、エレベーター	0	83	56	139
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	307	194	501

※実際の予算や事業費等とは異なります。